

「ハウス・オブ・ザ・イヤー2025」表彰式

寺尾信子 審査委員 講評

- ・受賞の皆様、おめでとうございます。心からお祝い申し上げます。
- ・私は2012年に審査委員を拝命し25年までの14回、本賞の審査を経験させて頂きました。
- ・この間に坂本雄三先生からお教え頂いたことが、今では掛け替えのない貴重な宝物となりました。
- ・心から深く感謝し、ご冥福をお祈りしたいと思います。

・ハウス・オブ・ザ・イヤー表彰制度の中での先生のご功績のひとつに、審査方式の確立があったと思います。

・本賞は応募書類に対して日本全体から見ても、屈指の、極めて優秀な事務局チームにより、公正、的確、精緻な分析がなされています。

・審査は、UA値・BEIといった「視点1」の、明快に数値化されたデータの分析から始まります。順位が明らかになるこの結果を土台にして、視点2・視点3の審査委員評価結果を加点し、整理ののち、口頭協議の末、最終結果を導いています。

・今年度は、次のような経過でした。建築写真を含む、数値化の難しい、視点2・視点3の資料の中に、各社で光るものがある場合に順位が入れ替わります。この際、ホームページも参考にさせて頂いています。例年のことですが、大賞の選抜は簡単ではありませんでした。選にもれた各位におかれましては次年度の新たなチャレンジを期待致します。

今年度の大賞受賞4社について主な選考理由を紹介させて頂きます。

【イビケン株式会社】LOOPER

岐阜県のイビケンさんは、数年来、「床ガラリファン」というDCモーターファン付きの、吹き上げ型の「床ガラリ」に着目し、「AirMaker」というシステムを創り上げ、全館空調分野に新しい選択肢を提起されました。2025年は企画型住宅21棟の施工実績により応募され、メンテナンスが容易で省エネ効果の高い、またイニシャルコスト・ランニングコスト・リプレイスコストのリーズナブルなシステムとして本格的に実践展開し、実証研究も継続されている点が評価され大賞に選ばれました。

【エコワークス株式会社】LCCM 普及実践型住宅

福岡県のエコワークスさんは、2012年以来、LCCM住宅の普及において他の追随を許さない業界のトップランナーでありながら、常に各種最新技術の導入を研究されています。その一例ですが、「おひさまエコキュートによる電気の自家消費率の向上」については多数の実邸調査により、効果検証を行った上、全住宅で推進を図りつつあり、自然エネルギー利用による省エネ効果と経済効果の最大化に向けての積極的な取組みが大賞選考において高く評価されました。

【株式会社 島野工務店】「凜」zero-1

栃木県の島野工務店さんは、「地域の誇り」を色濃く感じる企業です。セミナー・SNS 発信・自社書籍発行などの社会活動と共に、各住宅への個別対応では、「BELS 取得」「燃費ナビによる施主説明」などに始まり、引き渡し後の定期訪問など長期にわたるフォロー体制も充実しています。高性能開口部「島野の窓」をはじめとする、ひとつひとつの要素技術の採用にこだわりを持ち、住宅の質の維持と省エネ性能の両立で家作りを進めておられる点が高く評価されました。

【株式会社 菅谷工務店】全館空調の家 3

千葉県の菅谷工務店さんは、地域密着型の営業マンのいない工務店です。「住まいづくりで失敗する人をだしたくない」をホームページのトップワードに掲載、各住戸、建築士の責任担当制とのことで、「お客様との商談や打合せは全てその家を設計する建築士が行い、一級建築士自らがお客様の不満や要望を受け取ることで、無駄のない、かつ自由な家づくり」を進めておられます。品質の高い紀州産の国産木材活用を中心に据えながら、省エネ住宅の実践にまい進されている点が高く評価されました。

以上が大賞 4 社のご紹介でした。

・寺尾審査委員賞は、次の 2 社とさせて頂きました。

【株式会社 渡邊工務店】天然木の家

愛知県の渡邊工務店さんは「天然木（もく）で建てる百年住み継ぐ家」をホームページのトップタイトルとされています。「明治 40 年の創業で、119 年の歴史を有し、東濃檜による伝統の技と心により、東海地方で何と 8500 棟の住宅実績をお持ちです。自社の木材センターを持ち、自社専属の 90 名余りの棟梁・大工を有する大きな企業ですが、20～30 年といった短期の建て替えを必要とせず、1 軒 1 軒、百年、手を加え保守しながら愛し続けられる住宅であることを強く感じ、寺尾賞とさせて頂きました。

【アーキホームライフ】超暖 G3（基礎断熱）

大阪府のアーキホームライフさんは、ホームページのトップに、「性能、品質、デザイン、すべてが＜最高＞の家づくりを、**設計士と共に**」、というフレーズを掲げておられます。北海道や東北と異なり、私たち関東以西の設計士が、躯体性能を含めた省エネについて真剣に考え始めて、まだ、20 年程度の歴史です。「**設計士と共に**進める家づくりで、性能もデザインもどちらも譲らない」というコンセプトを掲げ、関西を発信拠点にして展開されていることに対し、新鮮な動向と感じ、寺尾賞とさせて頂きました。

・2025 年から秋元先生が審査委員長になられ新時代が到来しました。秋元審査委員長によるハウス・オブ・ザ・イヤー表彰制度の未来が楽しみです。2026 年の募集要項をご期待頂きたいと思います。

最後に表彰制度についての個人的な期待をお話しさせていただきます。

- ・各社の断熱・一次エネルギー消費性能は全体にわたって高レベルになりました。
- ・要素技術は百花繚乱ですが、各社ごとに地域性に配慮し、住まい手の方の心を捉え、自信と責任を持って建て主さんにしっかり対応されていると思います。

- ・年月の経過により、建物単体の省エネ性能のみで住宅の優劣を競う時代ではなくなったと感じます。
- ・たいへん唐突な例になりますが、「箱根駅伝」で言えば、「省エネ性能テーマ」の「往路のレース」は終わり、これから山下りの復路のレースが始まろうとしている段階かと思います。
- ・これまでの往路のテーマは「オペレーショナルカーボン削減」、つまり「建物運用時の省エネルギー性能の高度化」でした。

- ・復路のテーマは何でしょうか。
- ・それは、これまでの「オペレーショナルカーボン削減」とは別の、「建設・修繕・廃棄時などのカーボン削減」、いわゆる「エンボディドカーボン削減」と称されているものです。

今までにない、慣れない新しい取り組みが、いよいよ始まろうとしています。

- ・往路・復路、総合優勝するような住宅像はどのようなものでしょうか。

それは、とてもシンプルです。住まい手や地域から深く愛されて 100 年も長生きするような長寿命の住宅であると考えます。

- ・単なる性能の数値競争で勝利しても、愛されず、地域のまちなみに寄与せず、寿命があるのに単純に壊されてしまう住宅があるとしたら、それは、社会の要請に応えていない住宅であると思います。
- ・「省エネ性能」だけでトップランナーになることは難しい時代が始まります。

- ・新年度の賞で再び、皆様にお目にかかれましてを楽しみにしております。
- ・受賞の皆様、おめでとうございます。